

## 谷川・仙ノ倉沢西ゼン

西山 哲明



(東ゼンとの二俣)

◎メンバー 西山哲明 (単独) ◎期日 令和元年9月26日

沢の本では、“200m のナメ滝、壮大な景色と沢屋の憧れの沢の1つが仙ノ倉沢西ゼン”と案内書のふれ込みだ。まあそのうちに行けるだろうと思ったが、今回ちょうど三連休取れたので、ウキウキしながら会に計画書を提出した。

前日に湯河原駅近くの地元スーパーにより、前夜祭の準備をして平標新道に続く車道に車を止めて、とりあえずテンカラ竿を携えて毛渡沢へ入るが、全然釣れない。イワナはいるのだが、毛針を無視する。結局はチビいわなを二匹引き当てただけである。もうシーズンオフなので、魚達は恋の季節、食い気より色恋沙汰の方が良いらしい。トボトボと戻りソーセージを焼きながら一杯やり就寝した。

朝準備すると若い3人組が来た、彼らも西ゼンとのこと、挨拶をして出発。空が少し明るくなってきた。できたら12時には登山道に出たいものだ。アプローチをせつせと登り、入渓点へ。今回沢靴はラバーソールにしてみたが初っ端から滑る……。これは選択を失敗したかもしれないと思ったが、“まあなんとかなるさ”と開き直り進むことにした。ゴーロがしばらく続いたのちに東ゼンとの出会いに出る。脇にある東ゼンの大滝は立派だ、是非また行ってみたいと思った。

第一スラブの前にナメ滝を登るが、ツルツルで無理。チェーンアイゼンを付けて、登って行く。どこからが第一スラブだかわからないが、適当にルートを決めて登る。あとはまあ、登ってから考えることにした。登りながら昨日の前夜呑んだ日本酒を思い出した。湯河原のスーパーで買ったのだが、日本酒なのに46度のアルコール濃度である。それじゃあ蒸留酒なのかと思ったが、ちゃんと日本酒の香りと味わいだ、これはいい酒を手に入れたなあと思ってるうちに上部の草付きについた。おそらくこの先が第2スラブだろう。予想より短かったけど200mだしこんなものだろう。第二スラブは、急だがルート取りが第一スラブより簡単だった、乾いた場所を見つけながら登って、またまた今晚の夕飯について考えた。昨日はソーセージだったよなあ、今晚はどうしよう？海鮮もいいなあ、お好み焼きもありだと考えているうちに無事登れた。

あとは細くなった本流を登って行くと清水が湧き出ている終了点につく、ここからは伏流水だろう。脇の根曲竹の笹藪に踏み跡がありそこから上がる、空には秋の雲が天高く浮いている、暑くもなく寒くもない快適な天気だ。笹藪を漕ぎながら登ると紅葉で赤く染まっている平標山からの登山道が見えてきた、あと少しで登山道に出れるだろう。



(この上が第一スラブ)



(快晴で気持ち良い)



(第二スラブはそれなりに立っている)



(最後の滝)



(平標山が紅帽子をかぶっていた)

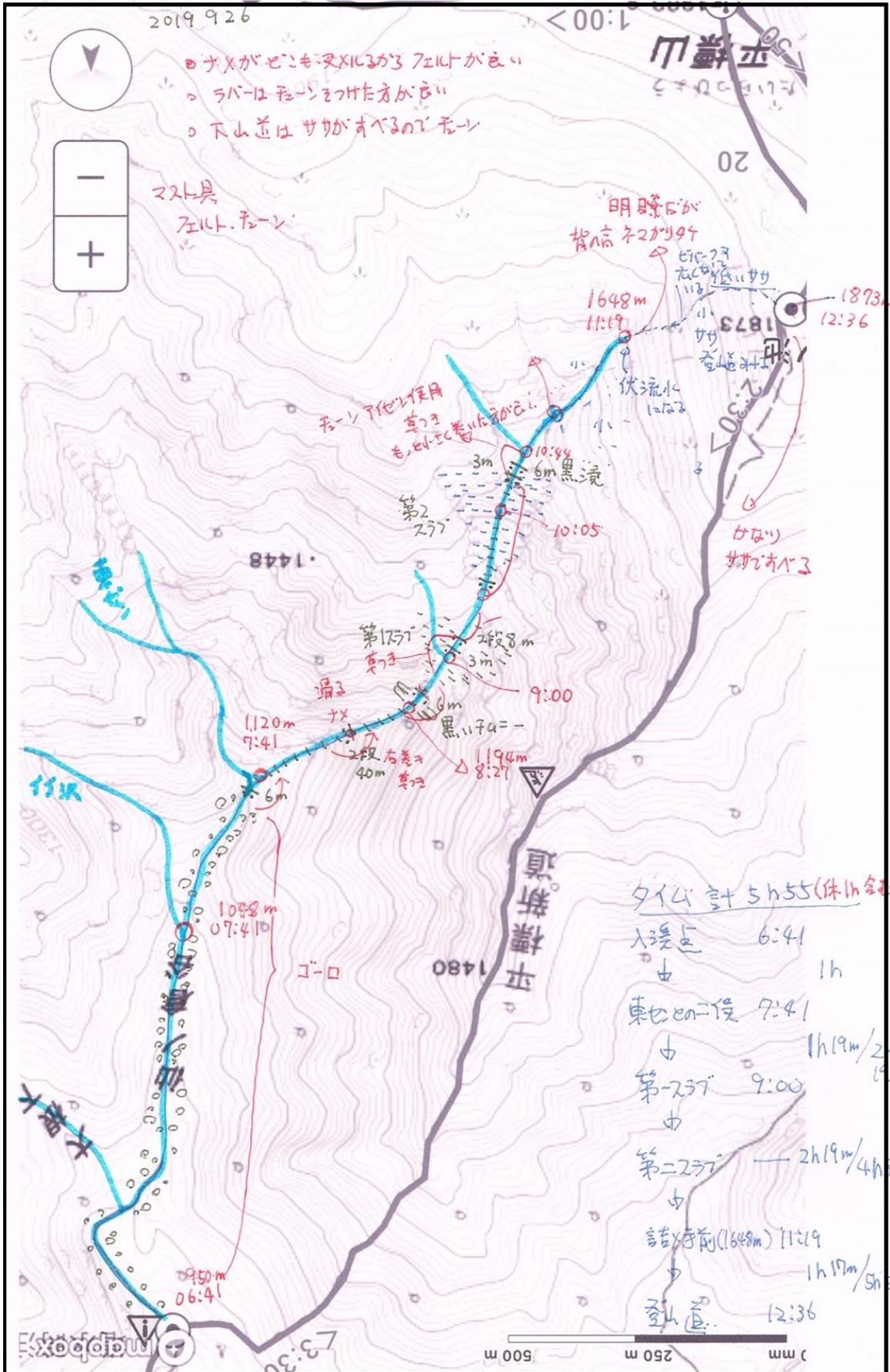


(登山道にて)



(下山しながら、西ゼンが見れるのが醍醐味です)

<参考タイム> 車止:5:30 発→仙ノ倉沢入渓点 6:30→東ゼンとの二俣:8:00→第一スラブ:8:40 頃→  
 第二スラブ 10:50 頃→原水地:11:10→登山道 12:20→入渓点戻り:15:20→車止:16:40



今後行く予定の方は参考に、また以前行かれた方は懐かしんでいただければ幸いです。  
所要時間ですが、ロープを出していませんが、かなりゆっくり登っています、また巻きを失敗して藪漕ぎをしております時間がかかっています。

詰めは、根曲がり竹の藪漕ぎで、ところどころ踏み跡がわかりにくいですが、なるべく急登を上がって行けばいつかは登山道に到着します。

#### 以前行った赤澤東洋会員からコメント

西ゼンのトポ懐かしく拝見。18年前の7月に群馬岳連のT氏のガイドで登りました。  
当方沢登りを始めて2年目の初心者。お客は小生含めて3人。60歳のオバさんは普段はもっぱらインドアクライミング派、沢は2回目とかで小生以上の初心者、もう一人の男性は小生と同年齢との事で沢の経験も同じようなもので、あっちでもこっちでもロープを出さねばならず入渓点から登山道まで、西山さんがゆっくり登って6時間弱のところを9時間、更に登山道を下って吊り橋までに4時間、合計13時間もかかってしまいました。

スラブは滑り易く恐々、最後の深い笹藪には手こずり登山道ではすぐ暗くなりライトに纏わりつく毒虫には何か所も刺されるわで散々でした。

T氏はガイド業始めてまだ日が浅く、こんなはずじゃなかったと渋い顔してましたっけ。  
もう少し若ければ機会あったら連れてってと云いたいところですが・・・、やめときます。

西ゼンご報告有難う御座いました。つらかった思い出も今となれば良き思い出・・・ってところデス。

#### そして、西山哲明会員から

赤澤さんが18年前に登られたルートを自分がまた登ってきたとは、とても嬉しく感慨深くなりました。西ゼンは本当に良い沢だと思います、ただガイド泣かせのような気もしました。

わたしは、単独で沢を登るときいつも自分がリーダーで誰かを連れて行くことを仮想しながら登るようにしています。ロープをどこで出したら良いか？アッセンダーを使うべきか？はたまたアッセンダーは、タイプロックが良いか、ユマールが良いのか？などなどですがこの西ゼンはかなり難問でした。

スラブ帯を草付きで巻いてしまうと、西ゼンの半分も楽しめたことにはならないでしょう。しかしこの広く長いスラブで中間支点を取りたくともRCCやリングボルトすら見つからないスラブなのでリスも見つからずかといって肩がらみできる傾斜や足場でもない。ガイド山行ならメンバーの練度もわからないし、顧客を死なせるわけには行かないので、T氏は苦勞されたんだろと思います。

わたしはまだまだ登っていない沢が沢山あり、赤澤さんが行きたい沢などありましたら、ご同行させていただきます、リードならやります！

(了)